

資料編

1. 県内各地で採取された砂・砂利の例

①富津市の山砂・砂利



径 0.2~0.6mm と、やや粒のそろった中粒の山砂。構成粒子は石英、黒色頁岩、硬質頁岩、チャート、軽石質火山岩などで、硬い大型粒子は磨かれているが、細かい粒子はあまり円磨されていない。

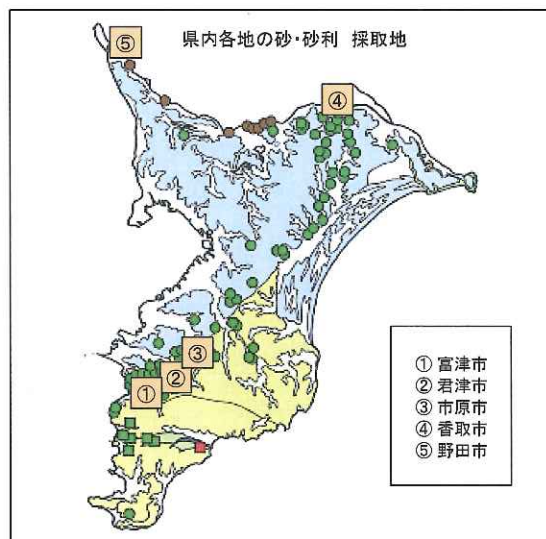


やや硬質のシルト層（砂より細かく、粘土ほど細くない粒子）をまだらに覆っている礫層から採取された山砂利。礫径~30mm で、礫種は砂岩、頁岩、チャート、石英、石英斑岩などで、よく円磨されている。基質は中~粗粒砂。

②君津市の山砂



緑灰色の細~粗粒砂。径 0.3~0.5mm の粒子が多く、構成粒子は砂岩、頁岩、軽石質火山岩、石英で、まれに径 2mm までの砂岩や軽石片が混じっている。



③市原市の山砂

	
<p>主に埋め立て用に使われる径～1.2mm程度の粗粒の砂で、細かい粒子もかなり入っている。構成粒子は軽石質火山岩、チャート、石英、砂岩などで、火山岩の殆どは風化してもろくなっている。</p>	<p>コンクリート用の径 0.25～2.5mm の中粒砂～細礫。0.6mm 前後の粒子が多く、これに粗粒子がかなりの量混ざっている。構成粒子は石英、チャート、砂岩、泥岩などで、その多くはよく円磨されている。</p>

④香取市（利根川）の川砂


<p>砂利採取船によって採取されたと思われる市販の砂（コンクリート用）。径 0.2～2.0mm と分級は不良で、大型粒子はチャートからなるものが多く、粒子の円磨度は良好である。</p>

⑤野田市（利根川）の川砂


<p>千葉県の北西端、野田市で採取した利根川中流部の川砂。あまり粒は揃っておらず、構成粒子はさまざまである。径 3mm ほどのチャートや火山岩、砂岩などの礫片をかなり含んでいる。</p>

資料：「千葉の砂」（独立行政法人産業技術総合研究所 HP）

2. 市宿砂層のボーリング調査の結果

対象地域内の2地点（104林班内）にて、過去にボーリング調査が実施されている。

その調査結果の報告によると、計画地及び周辺に分布する基礎層は、第四紀洪積世の上総層群の岩坂層及び市宿層に相当する砂層であり、この上位に長浜層、佐貫層が覆っており、下位の市宿層と長浜層は不整合の関係にある。またこの上位には、ローム層及び沖積層の分布がみられる。

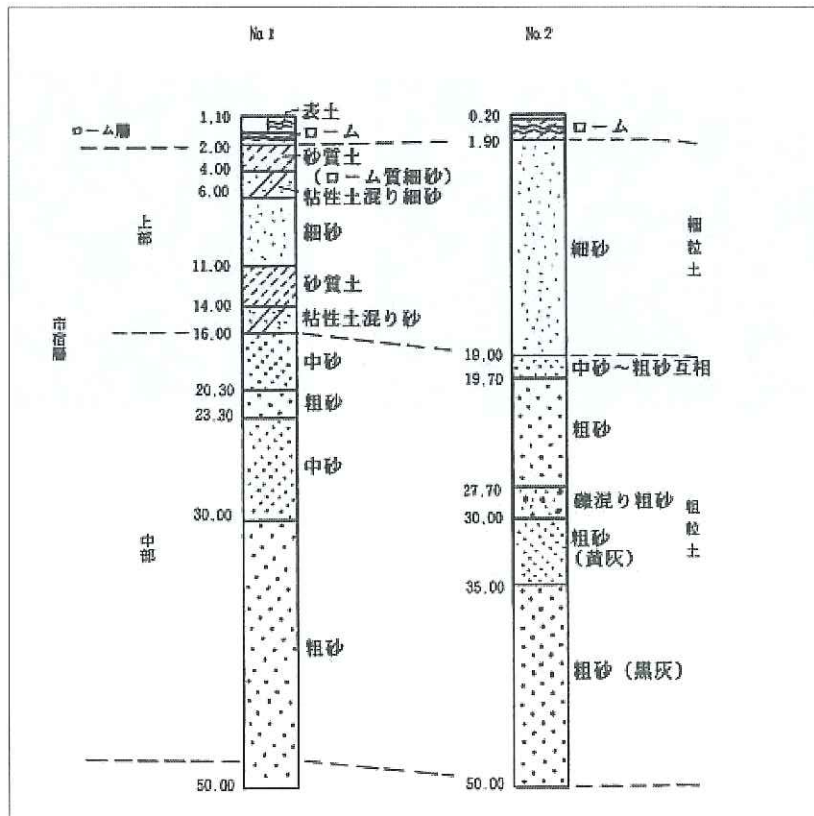
◇計画地及び周辺の地質層序

時代		層群	地層（主なもの）
第四紀	沖積世	—	沖積層
	洪積世	関東ローム層	
		下総層群	
		上総層群	佐貫層・長浜層・市宿層・岩坂層

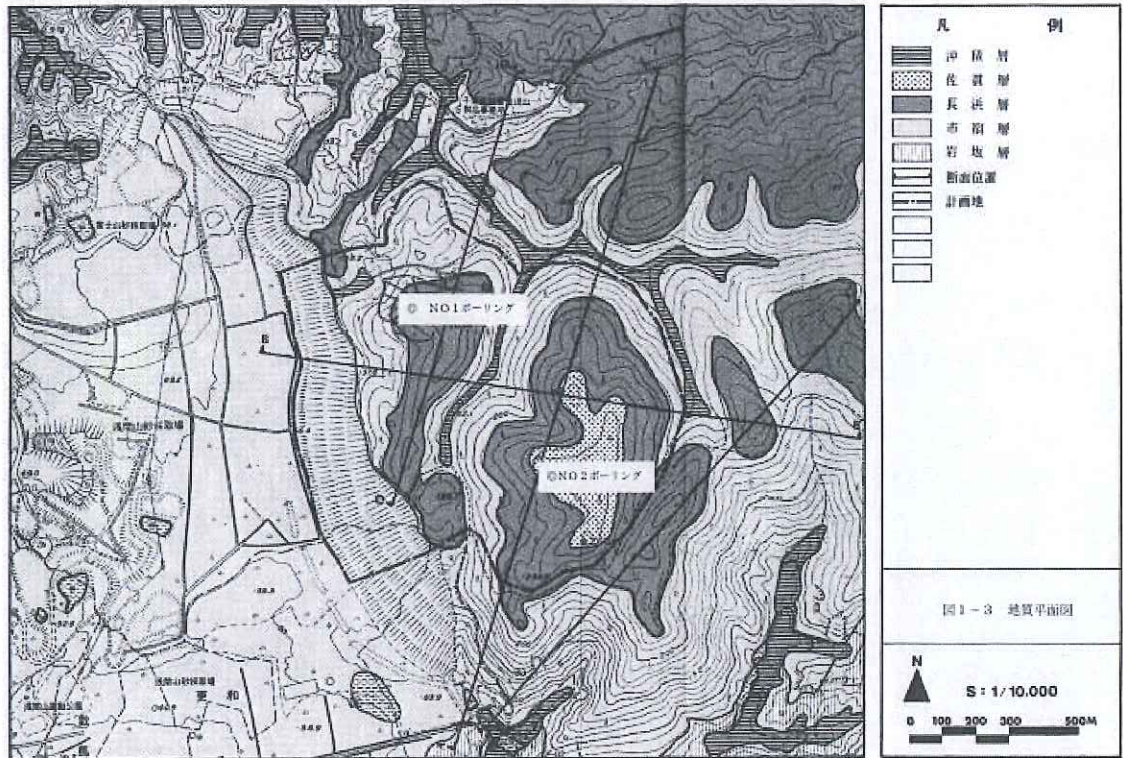
以下に、ボーリング柱状図、地質平面図、地質想定断面図を掲載する。

*以下の資料は、平成元年に地域住民に縦覧された「富津市環境影響評価準備書」から抜粋したもの

《ボーリング柱状図》



《地質平面図》



《地質想定断面図》

